



ホームページ
「中野あきと」

日本共産党市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

みどりと清流

第128号

中野あきと事務所

〒191-0041 日野市南平7-6-72

TEL・FAX 042-599-3350

発行責任者 小林 進

2012年

11月発行

しん 赤旗 ぶん

日刊紙1ヶ月 3400円

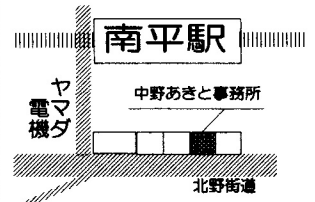
日曜版1ヶ月 800円

お申し込み 党南多摩事務所

TEL 042-374-4384

または中野事務所へ

法律・生活相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



貧困と生活苦への支援は

市政の最優先課題

6割の世帯が
課税標準二百万円以下

市民生活の現場から
目をそらさない市政を

日野市の個人市民税が減り続けています。リーマンショック以降、09年度には131億円、10年度121億円、11年度は119億円と推移しています。人口は増えていくのに税収が減っているのは、市民の所得が減っているためです。

「市税概要（2011年度）」を見ると、課税標準で所得が200万円以下の世帯が6割近くになりました。日野市でも高齢化とともに、現役世代、若年層にまで及ぶ非正規雇用や失業による低所得化、貧困化が広がっているのが分かります。

生活苦・貧困は、孤独や孤立化と背中合わせ

低所得や貧困による生活苦が、孤独や孤立化と背中合わせで広がっている深刻な事態を見る必要があります。貧困対策は今日、行政の最も大事な仕事になっているのです。2011年度の一般会計決算審議の中で、中野あきと議員がこのことを市長に強く求めました。

馬場市長の二つの発言

「世界の中で考えたら日本に貧困があるといえるのか」

「日本人には自害という美学がある」
いずれも9月議会の決算委員会の中で、与党議員の発言に答えたものです。ここには、深刻化している貧困や自殺の広がりの実態を受け止める姿勢がまったくありません。

市長の関心と予算は、もっぱら「市民の森ふれあいホール」の建設や来年の多摩国体、市政50周年事業に向けられてきました。来年4月に行われる市長選挙に向け日本共産党は、市民の皆さんとの共同を広げながら、深刻な行き詰まり状態にある市政の転換をはかるためにがんばります。

中野あきと

いわゆる貧困化は表面に見える形で広がっているわけではありませんが、どうしても「大変な人はそんなに多くない」「そんな人はわずかで努力が足りない人だ」といった見方になりがちです。しかし、数字の上ではすでに深刻な実態は明らかなのです。

見えない現実を見ようとする姿勢が、いま行政にも議員・政治家にも求められています。これが放置されるようなことになれば、社会の崩壊につながります。

くらしへの支援とともに、子育て・保育など働く人への施策は、いっそう重要な課題となつていきます。

日本共産党発行のパンフレット（1部100円）

『外交交渉による尖閣諸島問題の解決を』

- 外交不在から外交攻勢へ。
- 尖閣は歴史的にも国際法上も日本の領土。
- 「領土問題は存在しない」と言って領有の正当性を主張することも中国の非難にも反論してこなかった歴代日本政府。
- 紛争の存在を認めて、理を尽くした冷静な外交交渉で。

短信

総選挙が取り沙汰される昨今、「今度こそ伸びなきやダメだよ」という激励を頂きます。何しろ十年このかた、ご期待にそえず国政選挙での苦杯を重ねてきましたから▼「言うことは悪くないが共産党は…」この「…」のために貴重な支持を頂きながらも、更にそれが大きく広がるまでには至りませんでした。様々な意見が寄せられます。多く聞かれるのが「共産党は小さくて力不足」「入れても政治が変わるのか」という躊躇です▼政権交代への国民の思いも民主党政権が裏切りしました。その民主党はすっかり自民党化し、違いを出そうと自民党は「集団的自衛権の行使だ」「憲法改正だ」と、いっそうのタカ派ぶりです。第三極としてはやされるあれこれの「新党」も、右寄り・復古調の揃い踏みで、自民・民主の脱党組ばかりの集団です▼私たちの党が中央委員会を開いた10月14日。「共産、議席倍加をめざす」との報道が流れました。「議席倍加」は単なる政治目標ではありません。情勢を劇的に変えるための目標です。本格的に政治を変えるための国民のみなさんへのアピールなのです。全力でがんばります。お力ぞえをぜひ。(K)

生活道路の改修は急務 必要な予算の確保を

市の幹線道路・生活道路の路面性状調査の結果によると、舗装の損傷が著しく進行し早急な補修が必要な道路（Cランク）が延長13.5キロ（予算約17億円）、その手前の状態の道路（Bランク）が37キロ（予算約59億円）となっています。計画ではC・Bランクに位置づけられている道路の補修に年間1億8000万円投入することになっていますが、これでは補修に約40年間かかってしまうことが明らかになりました。

生活道路の改修は市民の強い要望があります。その緊急性や必要性を考えれば、早急に完了できるよう必要な予算の確保が必要です。公共施設の改修・更新などの必要性も高まっている中、新規の道路事業や区画整理を従来計画した通りにすすめることが本当に適切なのか、抜本的な検討が必要になっているのではないのでしょうか。

9月市議会の審議の中でも、この問題が取り上げられました。市は来年度の移動教室について全校が目的地を日光方面とすることを、すでに昨年11月の校長会で意思確認し準備がすすめられていると答えました。これでは、保護者の声に応えることができません。

①移動教室の目的地や内容については、企画段階で保護者の意見や要望を聴く機会をつくるとともに、不安や疑問に応えて、ていねいな説明を行うこと。
②移動教室の目的地、企画内容については、全校一律ではなく、各学校が自主的に判断し、決定ができるように、適切な助言を行うとともに、交通費、宿泊費に対する公費負担など必要な財政措置を講じること。

移動教室の目的地は
自主的に決められるように

もともと移動教室や修学旅行の目的地や内容は、学校ごとに企画し、教育委員会の承認を得て決定することになっています。

日本共産党市議団は、10月5日、市教育長に対して「小学校6年生移動教室に関する申し入れ」を行い、また、昨年、福島原発事故によって、日光市が「汚染状況重点調査地域」の指定を受けたことから、日光方面への移動教室について保護者の中から不安の声があがっています。

1年半も前に、市内全校が一致して同一目的地に決めてしまう仕組みが続いている状況は見直す必要があります。日本共産党市議団の申し入れは以下の2項目です。

ごみ処理施設の建て替え問題

日野市は、いまのごみ焼却施設を2019年度までに建て替える予定です。この問題で馬場市長は、9月議会で突然「設計の日程からいってこの12月、少なくとも年度内には方向付けを行なわなければならない」と述べました。

定例記者会見でも市長は「これまで検討してきた単独処理だけでなく、他の自治体との共同処理も含めて検討し、12月までに方向付けをしたい」と表明しています。

これは、これまでの大方針である『単独処理・脱焼却・脱埋め立てを目指す』『従って焼却炉はできるだけ小さなものにする』という方向の変更にもつながる大きな問題です。

これまで立川市のゴミ受け入れ問題の際も、「減量で努力しているのに何で他市のゴミを」など市民の議論を呼び、取り止めた経過もあります。ゴミ減量の取り組みは、市民の参加と行政との協働で築き上げてきたものです。

市民にも市議会にも情報を公開し、よく議論して決めていくことが大事です。ゴミ行政への信頼を揺るがすことのないよう公開と参加、熟議による決定が求められます。



クリーンセンター



ちかみきがはしる!

「しあわせ」を頂きました
地域のコーラス発表会

ちかざわ
近沢みき（日本共産党都議予定候補）



先日、七生公会堂で開かれた『しあわせコーラス25周年記念・しあわせおすそわけコンサート』を鑑賞させていただきました。程久保地域の方々が続けているコーラスサークルの発表会です。出演の最高齢者はなんと100才!お二人の年齢合計191才の堂々とした「デュエット」に観客は大感動です。みなさんが、歌うことで自分をおもいきり表現されていることがこちらに十分伝わって文字通りの「しあわせおすそわけ」でした。

脳梗塞の後遺症で言語機能を完全に失った私の母は、言葉が話せないというのに唱歌のCDにあわせて歌詞を口ずさむことがありました。3.11以降、涙も出なかった被災者の方がボランティアの歌でやっと泣くことができたと言いました。「歌う」ということが、人間に欠かせないかけがえのない行為だと「しあわせコンサート」でも再確認しました。25年間、続けてこられたことに拍手喝さいです。

《2012年12月の無料法律相談》
市役所6階 共産党控室 午後1時～3時
12月 13日（木）
※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

ご感想・ご意見を
お寄せ下さい。